

続けよう! 感染防止対策 コロナ禍の健康課題

Vol.1 新型コロナウイルス感染症患者在る「罹患後症状」

Vol.2 新型コロナと「がん」

Vol.3 新型コロナと「運動不足」

Vol.4 新型コロナと「子どもたち」

子どもたちの心身に大きな影響 過度に恐れず外出や外遊びを



国立成育医療研究センター
理事長

五十嵐 隆 先生



【聞き手】

宇賀なつみさん
(フリーアナウンサー)

広がる「子どもロコモ」 運動不足解消が重要

宇賀 現在の子どもの新型コロナの感染状況はいかがですか。

五十嵐 当初、子どもはこのウイルスに感染しにくいと見られていましたが、その後ウイルスが変異し、現在は大人も子どもも感染のしやすさに差はありません。ただし重症化することはまれで、18～28歳の人が入院または死亡するリスクをそれぞれ1とすると、0～4歳は4分の1と9分の1、5～17歳では9分の1と14分の1となっています。

宇賀 基礎疾患を持つ子どもは注意が必要とも聞きますが。

五十嵐 米国のデータでは、気管支喘息の子どもは感染リスクが1.5倍、また米国には肥満の子どもが多いため、BMIが30を超えるとリスクは3倍になるとされています。

宇賀 この状況が子どもたちの心身に与える影響が心配ですね。

五十嵐 最近では「子どもロコモ」という言葉もあるほど、子どもたちの運動不足が深刻になっています。外遊びは密を避けることができますし、紫外線を浴びることで骨の形成や免疫機能も活性化されますので、ぜひ外で日光や外気に当たる時間を持つようにしてください。

また、心の面で深刻な問題を抱える子どもも増えていますので、保護者

の方が見て様子が以前とは違うと感じたら、スクールカウンセラーやかかりつけ医に相談することをおすすめします。

小・中・高生の多くが ワクチン接種を希望

宇賀 感染拡大当初は、小児科への「受診控え」もあったそうですね。

五十嵐 先ほど紹介したように、基礎疾患のない子どもは感染しても重症化するリスクは極めて低いので、過度に心配して本来受けるべき医療を受けないということがないように願っています。必要な定期予防接種などを受けずにいることは、子どもにとって将来的

に大きな損失となります。

宇賀 小児へのコロナワクチン接種も始まります。注意点を教えてください。

五十嵐 心筋炎など、このワクチンに特有の副反応がごく少数見られることは事実です。しかし周囲の大人だけがワクチンを接種して集団免疫を完成させることはほぼ不可能ですし、子どもでも、新型コロナウイルス感染症を発症すると入院が必要な重篤な状態になることもあります。

私たちの行ったアンケートでは、小学生の55%、中高生の72%が接種を

希望すると回答しました。ワクチンは社会資源ですので、大人だけが独占して良いものではありません。12歳未満であっても本人と保護者がきちんと理解した上で接種を望むなら、その機会は与えられるべきだと考えます。

ワクチンを打つことで得られる安心感が、子どもたちの心理的不安を軽減することもあるでしょう。感染予防という身体的メリットだけでなく、心理的、社会的側面からもこの問題をみなさんに考えていただければと思います。



本セミナーの動画は、日本医師会YouTubeチャンネル、もしくは朝日新聞デジタルでご覧いただけます。

日本医師会YouTubeチャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCrZ632iBtYlZ5S2CtGh6rA>

朝日新聞デジタル

<https://www.asahi.com/ads/202112nihonishikaionline>

日本医師会
YouTubeチャンネル

